



放課後ラグビープログラム

競技人口の拡大を目指す

10月28日(月)、大津緑洋高校ラグビー場で「放課後ラグビープログラム」がスタートしました。長門市では、「我がまちスポーツ」としてラグビーフットボールの普及を図ることとしています。このプログラムは、低年齢層でのラグビー競技人口の拡大のため、中学生を対象に開催した

もので毎週水曜日同会場です。時から2時間行われます。講師には、大津高校ラグビー部OBで現在青山学院大学ラグビー部専任コーチの梅月信吾さんが招かれ、月に一度本格的な指導を行います。参加者の一人は、「ボール回しが楽しかった。これからも続けたい」と話しました。



▲講師の梅月信吾さん(右)

▼指導者も交えてタッチフットボールを楽しむ



山口県畜産共進会・第61回和牛共進会

長門で育つてチャンピオン



▲グラウンドチャンピオンに輝いた「ながひさかつ」号と永松さん

▼総合優勝旗を掲げるJA長門大津の小田組合長



10月29日(火)、県内の優秀な和牛(黒毛和種)が一堂に会してその優秀を競い合う、山口県畜産共進会・第61回和牛共進会が山口中央家畜市場で開催されました。長門市からは、種牛区13頭、肉牛区20頭が出場し、審査の結果、4年ぶりの総合優勝に長門大津農業協同組合が輝き

ました。また、油谷上野西の永松さんの出品牛が種牛区の最高賞であるグラウンドチャンピオン(農林水産大臣賞)を獲得しました。その他の部門でも合わせて4頭の牛が優等賞、優等賞2席を受賞し、好成績を収めました。

やきとり列車、再び美祿線を走る

とりちゃん、唄い踊る

10月26日(土)、JR美祿線にやきとり列車が再び走りしました。このやきとり列車は、「鉄旅オブザイヤー2012」グランプリを受賞した企画で、2回目の運行となりました。新山口駅を出発し、厚狭駅で焼き鳥と地酒を堪能。その後JR美祿線で仙崎駅に向か

いました。長門湯本駅では、旅館の女将が出迎えました。また、ここから、急遽結成された「とりちゃん」の3人が列車に乗り込み、曲を披露。車内には歌声が響き渡り、仙崎駅までの間、手拍子がやむことはありませんでした。

厚生労働大臣表彰を報告

食生活改善を訴え貢献

10月21日(月)、長門市食生活改善推進協議会長門地区の役員が、厚生労働大臣表彰の受賞を大西市長に報告しました。これは、40年という長きにわたって、食生活改善を通じて健康づくりの草の根運動を行ったことなどが評価され、受賞に至ったものです。

▼大野泰子会長が市長に報告



平成25年度納税表彰

税知識の普及に貢献

11月12日(火)、平成25年度納税表彰式が湊漁村センターで開催されました。この表彰は、団体の活動を通じて納税意識の高揚、税知識の普及等に功績のあった人に贈られます。○長門税務署長表彰 磯野道子(公益社団法人長門法人会女性部会)

○長門税務署長感謝状 吉津弘昭(公益社団法人長門法人会)、村岡昭(同会青年部会)、西村美代子(同会女性部会)、末永明典(長門間税務署) ○長門税務署管内納税貯蓄組合連合会長表彰 原田マツエ(長門税務署管内納税貯蓄組合連合会)

海上保安庁長官感謝状を贈呈

20年に渡って安全に貢献

11月1日(金)、山口県漁業協同組合湊支店で、海上保安庁長官感謝状伝達式が行われました。感謝状が贈られたのは、東深川の中原文雄さんです。中原さんは、平成5年に深川湾灯浮標の監視協力員に委嘱され、20年間に渡って灯火監視視活動を行ってきました。

▼感謝状を受ける中原文雄さん



長門のPeople



一歩でも前へ進み ノーサイドまで走り続ける

大津緑洋高校ラグビー部主将 **中野 伸彦** さん (18)

第93回全国高等学校ラグビーフットボール大会が、12月27日(金)から東大阪市の近鉄花園ラグビー場と東大阪市多目的広場を会場に開催されます。

12年ぶりの花園で1回戦突破を目指す大津緑洋高校ラグビー部は、中野主将を中心にチーム一丸となって厳しい練習に励んでいます。

自然の流れで始めたラグビー

ラグビーの盛んな明倫小学校出身であることと、ラグビーの指導者である父親の影響で違和感なく始めたラグビー。中学の部活動を引退してから本格的にラグビーをするための体制作りを始め、地元伝統校の門をたたきました。

敵からボールを奪うプレー

ラグビーの花形といえば、華麗にパスをつないでのトライや独走してのトライを思い浮かべ

ます。しかし、大津緑洋のラグビーの花形は、ボールを奪うプレー。敵のチャンスを読み取り、チャンスを生み出すこのプレーが今の大津緑洋に求められています。県予選準決勝では、ラインアウトから相手ボールを奪うシーンが何度も見られました。

地域に愛されるチームに「勝つチームは、勝つ資格がある」と春合宿の怪我で離脱した期間、強豪チームを分析しました。あいさつや練習態度、道具を大切に扱うことをリーダーとして仲間に伝え、地域に愛されるチームへと導いています。

地域や後輩たちのために

たくさんのボールや練習機材などは、先輩が花園に出場して地域からの支援があったからこそのもんです。花園での勝利が地域の人への恩返しとなり、また、後輩たちへの大きな手みやげとなります。

将来の夢は、世界の困っている人を支援すること。

ラグビーの聖地で縦横無尽に走る中野さんのノーサイドは、まだ先にあります。

ピエール・ガニエール氏が県産食材を試食

山口の食の魅力を確認

10月23日(水)、湯本の大谷山荘で、「美食王国やまぐち親善大使」ピエール・ガニエール氏が山口県産の食材を使った料理の提案会に出席しました。長州黒かしわや長門ゆずきち、岩国レンコン、見蘭牛などの山口県産の食材をガニエール氏に提案、山口の食

の魅力を広めてもらおうと開催されました。ガニエール氏は県産食材を使った料理を試食し、「地域が活性化するためには、文化、自然、人間という要素が大切だと思えます。日本的な飾り付けがヨーロッパの人たちを惹き付けます」と話しました。

11月9日(土)、青海島で、スキューバダイビング愛好者たちによるボランティア海底清掃が行われました。この日は、県内外のダイビングショップ9業者、61人が参加し、船越海岸と紫津浦湾に分かれて、海底のゴミを回収しました。

環境美化と景観保全を訴える

青海島でダイバーがボランティア海底清掃



▲提供された料理について、真剣に話を聞くガニエール氏

第15回香月泰男ジュニア大賞絵画展 児童・生徒の個性を表現

10月27日(日)、第15回香月泰男ジュニア大賞絵画展の表彰式が香月泰男美術館で行われました。これは、戦後日本の洋画界を代表する画家、香月泰男の業績を称えるとともに、児童・生徒の大きな心の育成と自分らしさを表わす力の向上を目指そうと開催さ

れています。「食べ物を描こう」というテーマで行われた絵画展には、全国から822点の応募がありました。日展評議員の竹内浩一審査委員長は「ここから日本を代表する芸術家に育ってほしい」と述べました。

▼ジュニア大賞は山陽小野田市の石川雄大さん (前列中央)



11月18日(月)、俵山入口(大羽山信号付近)に新しい看板が完成しました。これは、地域おこし協力隊員・小坂保成さんが企画した地域おこし事業の一環で、静岡県で活動するイラストレーター・サノユカシさんに制作を依頼したものです。

▼サノユカシさん(左)と小坂さん(右)



俵山をもっとPRするために

俵山入口に新たに看板設置